

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B1204-3		事務事業名			子ども会活動支援事業			事業期間			平成3年度		～	令和8年度以降					
実施計画事業																					
実施計画事業以外の事業		○		担当部			こども未来部			担当課・担当係			多世代交流プラザ・事業推進係								
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編		基本 施策	12	展開 方向	4	事業・予算区分		一般事業		款	3	項	3	目	1	大	4	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市子ども会活動促進連絡会議設置要綱 小牧市子ども会活動支援補助金交付要綱								対象 (何・誰を対象に)		市内の単位子ども会									
	目的 (何のために)	子ども会は、住んでいる地域に一番密着した組織で、異年齢の子どもたちが様々な活動や遊びを通じて、自主性や社会性を育む貴重な場であるため、子ども会の活動を促進・支援する								内容 (どのような方法で)		子ども会活動に対する支援として、子ども会活動支援補助金、行事用バスの費用、講師の派遣、レクリエーション用物品の貸し出し、こども未来館の優先利用を実施。									

(2)事業費

事業費	項目				単位等	R2	R3	R4	R5	R6
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円		1,341	1,418	1,524	
				国・県支出金			0	0	0	
				その他			160	837	1,912	
			計(A)			0	1,501	2,255	3,436	
			対前年比			%	—	—	150.23%	152.37%
		予算額			千円		3,367	4,278	4,233	10,097
	人件費	正規職員			人		0.4	0.4	0.4	
		正規職員(平均賃金)			千円	0	2,994	2,994	2,994	
		その他職員			人					
		その他職員(時給×時間)			千円					
		計(B)			千円	0	2,994	2,994	2,994	
事業費合計(C=A+B)				千円	0	4,495	5,249	6,430		

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	12	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1								
	展開方向	4	2								
			3								

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標	子ども会活動促進連絡会議 加入団体数	団体	目標					
				実績	—	66	72	70	
				目標					
				実績					
	活動指標	支援策を活用した団体数	団体	目標					
				実績	—	47	53	57	
				目標					
				実績					
	単位 事業あたり	受益者数(a)		人	0	47	53	57	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円		95,646	99,045	112,814	

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維 持(改 善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの						
	事業の達成状況と課題	令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類となったことを受け、少しずつ子ども会の活動も活発になってきており、支援策を活用するようになってきた。 共働き世帯が増える中で、子ども会役員の負担軽減について検討が必要である。		今後の実施内容・今後の改善内容	バス利用や講師派遣等の申請方法について、スマホ等からも申請できる専用フォームを用意し、負担軽減を図る。				
	改善の有無	無		事務事業評価 による額	千円 節 細節 細々節				
	これまでの改善内容								

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析	評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	子ども会は、住んでいる地域に一番密着した組織で、異年齢の子どもたちが様々な活動や遊びを通じて、自主性や社会性を育む貴重な場であるため、支援の必要がある。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある	子ども会の活動縮小や休止又は解散の要因となる。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	子ども会活動の活性化を促進するために必要な支援であり、経費を削減すればサービスが低下する。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	元々は市子連が主体となり子ども会の支援を行っていたが、各子ども会から選出される役員の担い手確保が困難となり市子連が解散となった経緯がある。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	各子ども会活動に対する補助等おこなうものであり、適正である。